

流通経済大学から女子ラグビーワールドカップへ



右から小林ちひろ選手、鈴木彩夏選手、井上愛美選手。今回の訪問ではワールドカップ出場報告と、出場を記念して市に日本代表ユニフォームを寄贈してくれました

アイランド大会の結果を中山市長に報告

GRACE（流通経済大学ラグビー部）の3選手が、内山達二監督とともに今大会の出場報告のため中山市長を訪れました。

アイランドで開催された今大会。日本代表チームはフランス、アイランド、オーストラリアの強豪国を相手に予選を戦い、最終的には5戦1勝の成績を残しました。

「日本女子ラグビーのレベルは年々、上がっている」と話す内山監督。今回の結果は12チーム中11位でしたが、どの試合も体格の違いをものともせず、勝利まであと一歩のところまで相手を追い詰め、これからの躍進が期待できる実りある大会だったそうです。

2021年の次回ワールドカップでは、さらにレベルアップした日本チームをぜひ見たいですね。今後の活躍を期待しています。

今年8月、15年ぶりに「女子ラグビーワールドカップ」へ出場を果たした日本代表チーム。メンバーに選出されたRKUラグビー龍ヶ崎

流経大バスケットボール部ヘッドコーチが戦術の解説本を寄贈

—中学校部活動や体育の授業などで活用—

10月3日、流通経済大学スポーツ健康科学部スポーツコミュニケーション学科助教で同大学バスケットボール部ヘッドコーチの小谷究氏から、市内中学校で活用してほしいと、『ボールマンがすべてではない バスケの複雑な戦術が明らかになる本』が寄贈されました。

同氏からは以前、バスケットボールの分かりやすい図解解説本『バスケットボール用語事典』を市内小中学校に寄贈いただきましたが、今回はさらに踏み込んだバスケットボール戦術の解説本となっています。寄贈していただいた書籍は、同氏とプロバスケットボールチーム「千葉ジェッツふなばし」ヘッドコーチ・大野篤史氏の共著となります。

寄贈いただいた書籍は全中学校に配布し、部活動や体育の授業などで活用する予定です。



『ボールマンがすべてではない バスケの複雑な戦術が明らかになる本』東邦出版／単行本（ソフトカバー）／232ページ

「ふれ愛広場 2017」に 3,500 人 —来て、見て、体験できるふくし祭り—



雨の中、多くの来場者でにぎわいました

障がいのある人もない人も一緒に触れ合うことのできるふくしまつり「ふれ愛広場 2017」が、10月15日、文化会館などを会場に行われました。

市ボランティア連絡協議会と市社会福祉協議会が主催したもので、この日は500人を超えるボランティアスタッフにより、障がい者のニュースポーツ「ボッチャ」や「卓球バレー」をはじめ、模擬店や縁日、バザーコーナーなどさまざまなイベントが催されました。また、同会館大ホールではながと夢保育園や県立美浦特別支援学校音楽部の太鼓演奏や、流通経済大学新体操部、愛国学園龍ヶ崎高等学校ダンス部による新体操やダンスが披露され、会場は雨にもかかわらず3,500人の来場者でにぎわいました。